



地区スローガン **愛着と誇り**

クラブテーマ
ロータリー：
変化をもたらす

**一人一人がリーダーシップ力を
発揮する楽しいクラブ**



創立/昭和 36 年 6 月 28 日
承認/昭和 36 年 8 月 3 日
例会日/火曜日 12:30~13:30
例会場/勝山市民活動センター内
〒911-0811 福井県勝山市片瀬町 1 丁目 402 番地
TEL0779-87-7761 FAX0779-87-7760
URL <http://katsuyamarc.jimdo.com>
Email: katsuyamarc@gmail.com

会長スピーチ

会長 竹原 幸雄



職業奉仕講演会「決議 23-34」の思い
そしてそのこころ」の案内の報告がな
され研修委員長さんよりそれへの参加
について強く促されました。

私は恥ずかしい話ですがその件につ
いて余り理解が進んでいなく一から知
らなければならぬ状況ですので、1月 14 日の講演会に
は是非とも参加したいと思っています。

まず手始めに昨年度のガバナー月信 1 月号のロータリー
コラム「決議 23-34」についての掲載欄を数回読んでみ
ました。

そこでは最初に「なぜ決議 23-34 とよばれるようにな
ったか」について書かれてありました。はしおって言え
ば、個人奉仕派と団体奉仕派の大論争に終止符を打つた
ために 2 人の決議委員が妥協案をつくり、それが採択決議
されました。

それは 1923 年のセントルイス国際大会において決定
された決議の 34 番目ということから、決議 23-34 とよ
ばれるようになったと書かれてありました。この決議は
ただ単に個人・団体の奉仕双方の妥協案であっただけで
なく、ロータリーにおけるすべての活動の指針であり、
コントロール規範となる重要なドキュメントであるところ
に本当の素晴らしさがあると書かれてありました

是非とも一人でも多くの会員の講演会への参加をお願
いします。

2019-2020 年度会長候補を募ります。申し込みは次週
例会までをお願いします。立候補者がいない場合は例年通
り選考委員会にて選考に入ります。よろしくお願いま
す。

●幹事報告

幹事 梅田 秀司

○例会変更のお知らせ (詳細は地区ホームページで)

◇到着物

40 周年記念誌 武生府中ロータリークラブ
ラックニュース

●委員会報告

○親睦・ロータリー家族委員会

鷲田 政憲

新年会は 1 月 10 日(水) 18 時 30 分開始です。

●出席報告

中道 直司

12 月 12 日 欠席 8 名 70.37%
12 月 5 日 欠席 3 名 88.89%

●S A A 報告〈ニコニコ箱〉

和田 達也

届出欠席……………和田達也会員
早退……………竹田・五十嵐会員
遅刻……………辻・五十嵐会員

2017-18 年度地区大会の登録について

1 月 20 日登録締切りです。

下記日程をご覧いただき、1 月 16 日例会に登録申込書
を提出いただきますようお願いいたします。

日 程	行 事 名	登録料(参加料)
4月7日(土)	13:30-15:30 会長・幹事・地区委員長会議	登録料不要
	17:00-19:30 副会長代理ご夫妻歓迎晩餐会	20,000円
4月8日(日)	7:30-8:30 副会長代理ご夫妻を囲む朝食会	ウェスティンホテル京都の宿泊 料に含む
	10:00-11:30 新会員セミナー	3,000円 (会費代金含む)
	10:00-11:30 青少年奉仕フォーラム	参加希望のロータリアンのみ 3,000円 (会費代金含む)
	13:00-16:00 地区大会本会議	会員10,000円 ご家族7,000円
	9:00-16:15 エクスカーション ※ご家族対象	18,000円 (本会議への家族登録料に含む)
	16:00-17:00 京都・桜の名所 蹴上インクライン散策 (バス利用の要・不要)	
	17:00-18:30 大懇親会	本会議登録料に含む

楽しく快適なバスの旅になるよう思案中です。
お楽しみに！

次年度幹事 滝川

12/18 プログラム	クリスマス 家族例会	12/26 プログラム	休会	12/26 プログラム	休会	1/10 プログラム	新年会
----------------	---------------	----------------	----	----------------	----	---------------	-----

【ゲスト卓話】

着物の長い袖が意味すること

塩見呉服店 塩見 聡 氏



着物は平安時代中頃の小袖を源流として約 1000 年の歴史があり、長い間日本人の日常着として今日に受け継がれてきました。

今日はそんな長い歴史の中で着物に受け継がれた意味や、暮らしの中で果たしてきた役割について「着物の長い袖」を例にしてお話します。

今回展示した大正時代末期の三つ襲の着物について

これらの着物は白、赤、黒地の三枚同柄の着物で、江戸時代から昭和初期にかけて嫁入りの時に三つ襲で着た着物です。この三枚の花嫁衣装には、それぞれにメッセージが込められています。

白地の着物はどんな色にも染まることから、花嫁が嫁ぎ先の色に染まることを表し、赤地の着物は夫への愛情、黒は不変の色で黒地の着物は夫への変わらぬ心を表し、三つ襲の衣裳は花嫁としての決意を表しています。

このように古くから受け継がれる着物にはすべて意味があり理由があります。もしそこに意味や理由がなかったら、こんなに長く受け継がれることはありません。しかし残念ながら今は形だけが受け継がれ、その意味や理由を知る人はほとんどいなくなっています。



着物の文様に植物文様が多いのも意味がある

着物に描かれる植物はほとんどが薬草で、日常着の着物に薬草である植物を描くことで、その薬効や霊力（超自然的な力）を身体に取り込み、人間にとって最も怖い「老いや病や死」「邪悪なもの」を遠ざけるためといわれています。これは家の玄関に神社のお札を貼ったり、お正月にしめ縄を飾り魔物の中に入れないのと同じ意味があります。

浴衣に藍染が多いのも意味や理由がある

浴衣は湯帷子（ゆかたびら）を語源とし、湯帷子とはお風呂（当時は蒸し風呂）に入るときに着る白い麻の衣裳をいいます。

なぜ白い麻の衣裳を着たかという、白は清浄な色で神を表す色。そして麻は生命力が強く魔物を寄せつけないといわれ、無防備な身体を守るため白い衣裳を着たといわれています。

その浴衣を藍染で染めたのは、藍のもつ独特の香りと藍の成分が、蚊（虫）を寄せつけない効果があったため。（生き物の中で、人間の死亡原因の第 1 位は蚊）そのため浴衣は藍染に染められました。

着物の長い袖にも意味があり、役割がある

着物の形は日本で生まれ、独自に発達したものではありません。例えばブータンや大陸の北方騎馬民族の衣裳も着物と良く似た形で、もともと着物の原型は大陸から伝わり、日本の風土に合わせ進化したものといわれています。

しかし着物のような長い袖は特徴的で、日常生活の中では不都合が多いのに、なぜ日本では長い袖が受け継がれるのか？ そこには大きな意味と役割があります。

着物の長い袖はどこから生まれ、何を意味する

古代、神に仕えた巫女は両肩から腕に長いストールのような布をまとい、これを振り空気を振動させ、手に小竹葉（おざさば）を持ちサラサラと音を発することで神を招き寄せました。この長い布を比礼（ひれ）といい、この比礼が着物の袖に引継がれたといわれています。この比礼にまつわる伝承は古事記にもあり、大国主命が国を治める試練として、蛇や百足、蜂のいる洞窟に閉じ込められた時に、比礼を振ることで難を逃れたという記述があります。そのため着物の長い袖は、振ることで神を招き、その神の力で災いを防ぐ意味があります。



また神が宿るといわれる袖は、結婚後振袖の長い袖を切り、その布で乳児の着物を作り神の加護によって子供が無事成長することを願うという風習が最近まで残っていました。そして子供のおもちゃも振って空気を振動させ音が出るものが多く、それは子供の関心を引きつけるためだけではなく、神を招き邪悪なものを祓うためといわれています。

袖には、もうひとつ大切な役割がある

それは「霊（たま）よばい」といわれ、着物の袖を振ることで好きな人の魂を引き寄せ、その願いを叶える霊力があると信じられていました。

また古来女性は寡黙で決して言葉では自分の意思を伝えず、袖の振り方によって自分の意思を伝えたといわれています。例えば、男性から愛の告白を受けた時、二通りの振り方があり、前後に振る時は断り、左右に振る時は受け入れを意味しました。

「振る」「振られる」「袖にする」は、この袖を振って自分の意思を伝えたことから生まれた言葉です。

しかし残念ながら今は洋服の時代で、神を招き相手の魂を引き寄せる長い袖はないので「袖を振る行為」は「人に手を振る行為」に受け継がれました。

例えば旅立つ人を見送る時「行ってらっしゃい」と手を振るのは、神を招き神の力で無事を祈る行為です。天皇家の方々が新年の参賀に国民に向かって手を振るのは、神の加護と幸せへの祈りを表しているといわれています。

普通「人に手を振る行為」は、家族や大切な人にする行為で、誰にでもする行為ではありません。

ですから皆さんも新婚の時、御主人や奥さんがお出掛けの際、思わず手を振ったのも神の加護を願ってのもの。しかし結婚して数十年、今は手を振ることをやめてはいませんか。是非、今日から御主人や奥さんに「手を振る行為」を復活してください。

終わりに

着物には 1000 年を超える歴史があり、現在に受け継がれています。

そしてそこには先人の知恵や信仰、心の拠りどころが形として受け継がれています。

そういった着物の意味や役割を知り、もっともっと着物に愛着をもってもらい、機会がある時は是非着物を着ていただけたらと思っています。